

OSK KHJ岡山きびの会

平成 28 年 9 月 20 日

第 3 種郵便物認可(毎月 25 日発行)

平成 28 年 8 月 27 日

OSK 増刊通巻 462 号

<http://kibinokai.ciao.jp> 「メッセージ・21」

第 155 号(平成 28 年 8 月)



『KHJ 岡山きびの会』のご案内

2016 年度 年会費 正会員 6,000 円 賛助会員 3,000 円

月例会参加費 正会員 500 円 正会員以外の方 1,000 円

郵便振込先 01380-6-77803 KHJ 岡山きびの会

※ご入会・ご寄付は随時受け付けております。

連絡先 会長 川島焔三 〒708-0821 津山市野介代 5 2 6 - 3 0

【電話】090-7541-5263

居 場 所：岡山市北区表町 1 丁目 4-64 上之町ビル 4 階（市電・城下電停すぐ、アーケードに隣接）

月・水・土曜：午前 11～午後 4 時、金曜：午後 1 時～6 時（詳しくは巻末をご覧ください）

「KHJ 岡山きびの会」の願い

不登校・ひきこもりの子どものことで悩んでいる親どうしが情報を交換し、親の気持ちが癒され、元気づけられ、「この子がいてくれて本当に良かった」と心から思えるようになることを目指します。そして本人たちが自分の意思と選択と決定において生き生きとして社会参加できるようになることを支援します。

グループでの話し合いの約束

- ここでの話はここだけのことにしましょう。
- 相手の話は受容しながら聴きましょう。
- 非難・批判はしないようにしましょう。
- 長く会に参加している人は新しい人に手をさしのべましょう。

<8月例会のお知らせ>

日 時：平成 28 年 8 月 14 日（第 2 日曜日）午後 1:00～4:00
場 所：きらめきプラザ 2 階 ゆうあいセンター 大会議室
岡山市北区南方 2 丁目 13-1 電話：086-231-0532
内 容：「引きこもり大学 in 岡山」（若者が発表します）
講 師：「グローバルシップスこうべ」森下 徹代表
●ひきこもり相談会（役員による来談者へのオリエンテーション）
参加費：正会員 500 円 正会員以外の方 1,000 円

<9月例会のお知らせ>

日 時：平成 28 年 9 月 11 日（第 2 日曜日）午後 1:00～4:00
場 所：きらめきプラザ 2 階 ゆうあいセンター 大会議室
岡山市北区南方 2 丁目 13-1 電話：086-231-0532
内 容：「家族教室に参加して思うこと」
講 師：西 紀子先生（KHJ 岡山きびの会「家族教室」担当）
●ひきこもり相談会（役員による来談者へのオリエンテーション）
参加費 正会員 500 円 正会員以外の方 1,000 円

不登校、ひきこもりを考える—今を受けとめて—

NPO法人東京シューレ理事長
NPO法人全国不登校新聞社代表理事 奥地圭子先生

1. 自己紹介

皆さん こんにちは。ご紹介いただきました奥地圭子と申します。私は東京で昭和16年に生まれましたが、父の郷里である広島県の三原で育ちました。昨日がたまたま父の命日でしたので、これも何かのご縁かなと思いお引き受けしました。資料のレジメの裏側の2ページに私の関係している「不登校関係活動・作り出した場や期間」(13項目)が示されています。私は教員をやっていた期間が22年間ありましたがその中で、自分の子が不登校になり、親が大事だなど思いましたので、親の会を作りました。1984年から「登校拒否を考える会」の代表をずっとやっています。その他にグラフのようなもので示しましたように、それぞれの会に関係してきています。そして去年度は文科省や東京都の会議にも委員として関係しております。東京シューレや不登校新聞の関係もそのような活動の一環です。これも原点は自分の子どもの不登校から始めたことです。

2. 我が家の不登校から学ぶ

うちの子が不登校をしたのは1978年・38年前(小学3年生)でした。現在は高止まりで小中高合わせて12万3千人位と言われてはいますが、不登校が増え始めたのが1975年と言われてはいます。何がきっかけかという、家を転居して転校したことがきっかけだったんです。朝学校に出かける時になると、腹が痛いとか頭が痛いとか言い出して、学校に行きたがらなくなりました。どうやら転校生のいじめにあったようです。人とちょっと違うという所があったのでしょう。それから前の学校と比べて、子どもから言わせると息苦しい学校、私に言わせると管理的な学校ということになります。色々ありましたが私はどうしたらいいか分からなかったのですが、我が家の転換点は渡辺位先生に出会ったということでした。息子はその時「僕は僕でよかったんだ」と自覚したようです。

3. 親の会の大切さ（登校拒否を考える会）

息子の体験を私が話すようになったので、いろいろ相談されるようになりました。教師はどうしたら授業が分かるようになるかとか、どうしたら授業が楽しくなるのかなどを考えるのですが、学校に来れない子をどうしたら来るようにできるのかなどということはよく分からないのです。それで親の会を作って、登校拒否を考える会を始めたわけです。当時は首に縄をつけてでも、学校に行かせるべきだという考え方が支配的でしたから、親としては子供が学校に行かないということはとても辛かった時代です。一家心中をすることかとても辛いことも色々ありました。学校に行かないということは学校が居場所でないということですから、不登校をする子供の気持ちを分かろうということで親の会を作ったわけです。

4. 子ども・若者に居場所が必要（東京シューレ31年）※資料参照

そうして親が集まるようになると、親が元気になってくるようになり、親の会に来たお母さんが元気になりました。元気になったお母さんを見て、子どもが関心を持つようになり、子どもが集まるようになりました。そうして子供が集まる居場所が必要になり、東京シューレができることになった訳です。東京シューレは22歳までということですが、「東京シューレ」のパンフレットをご参照ください。入会条件はたった一つ。子どもが希望するということです。子供のニーズに従うことです。ホームシューレもシューレ大学もその流れで自然発生的に生まれてきました。

5. 閉じこもり・ひきこもりの若者（事例）※資料参照

資料の3ページに女の子が二人写っているものですが、①Nちゃん、②Sちゃんの事例は東京シューレの30周年の記念誌に100人インタビューとして載った事例です。③Iさんの事例は不登校新聞に一年間連載で載ったものです。不登校新聞は今はネットで見ることもできます。

6. 渡辺 位（たかし）さんのコメント ※資料参照

渡辺先生は我が家の息子の転機になった先生で、資料の4ページに「引きこもりに思うこと」という文章があります。ブックレット「引きこもり・閉じこもりは問題か」（「登校拒否を考える全国ネットワーク」と「東京シューレ」の編集発行）からの転載です。人はこうあるべきだという目的や規範を先に決めつける前に、「まずその現状を、まぎれもない現状とし、“今”を生きる命を信

じ、そのメッセージに心の耳を傾ける」という言葉があります。これが私は最も大切だと思います。

7. 親のかかわり・支援者のあり方

① 今を受け入れること（本人も家族も）

良い悪いではなく、現実をそのまま認めてスタートすることが本人の主体性をはぐくんでいきます。社会と違う自分はダメだと思いがちですが、それぞれのお子さんそれぞれに生きてきた良さがあり、その個性を受け入れていくこと、その主体性こそ大事です。

② 本人の安心が大事（家庭を居場所に）

苦しい時はこんな自分は受け入れられないとどっかで思っているところがあります。家族が受け入れてくれていると感じた時に安心できます。あるがままのあなたでいいよということがとっても大事です。わざとらしくならないこと、本気でそう思うこと。

③ ひきだし屋、やらせ屋になるのはダメ

かつてはよくありました。東京では頼むとそういう人が来ます。今日の資料の8ページに「支援ではなく暴力」という記事を入れておきました。本人達が記者会見をしました。これは典型的な例です。周りの者が苦しいから焦ります。これはやめてほしいです。

④ 自分のやりたいことが理解され、応援されること

就学・就労に繋がらないことでも、本人がやりたいことを応援すること、やりたいことがやれたら人間幸せですし、それが個性を育てることになります。ゲームでもそれを通していろんなことに頭を働かせます。ゲームでも様々な力が育ちます。

⑤ 信頼できる相談者を持つこと

「だあれもわかってくれる人がいない」ということが本人にとってはとってもきついことです。家族の中でたった一人でも理解者がいる事が大切なのです。他の人を理解者にさせようということではなく、自分が理解者になることが大切なのです。

⑥ その人の人生はその人のもの

親子といえども別人格です。その人はその人として人間として尊重できているかということです。引きこもっていても楽しくやれている事が大切です。

楽しくやられていることがまた何かにつなげていけると思います。

8. 長期のひきこもりで、すぐに働けない場合

①支援は恥じゃない

高岡健先生をご存知でしょうか。先生は診断を受けることはその診断によって生きていくことが権利として認められたと言われています。この世の中はお互いに支え合って生きているわけです。人同士対等で支え合うということが支援です。その考え方を持つことが大切。

②社会資源の活用

保健所とか、精神保健福祉センターとか、市町村の福祉の窓口とか、親の会とか、サポステとか、ハローワークとか、障害者支援センターとか、NPOとか、今は結構色々支援してくれるところがあります。自分に合っているものがあったらどんどん利用したらいいのです。

③ひきこもりの生涯設計（※資料参照）

不登校新聞で半年連載したもので、資料の5p～10pにあるサバイバルプランナー・浜田裕也さんの「生涯設計」の作成手順を後でお読みください。現状確認・将来設計・リスク確認・対策立案を通して、無理のないように「見えない将来」を見通して行きます。

9. 今を受けとめ、共に生きるということ

① 本人のものの考え方（自己肯定感）

多様な成長・多様な生き方が認められる社会

② 家族

今生きている状態を大切にする、共に生きる家族としての生活を大切にする

③支援者

してあげるではなく、人同士として本人が楽になるように支援する

③ 地域・行政

その人の今の状態でサポートできること、繋がりを求めて情報提供をすること、

⑤国の仕組み

国の仕組みも今はまだまだ多様な在り方を認めていない社会です、不登校も引きこもりも人として理解されて人として生きて行き易くする仕組みづくりが大切。〈文責・川島〉

お知らせ掲示板

第11回KHJ全国ひきこもり家族会
連合会・家族支援者交流研修会
2016年9月18日・19日（月・祝）

場所

伝国の社内・置賜文化ホール
山形県米沢市丸の内1-2-1

大会テーマ

誰もが希望を持てる社会を目指して

今年は大分早い開催になりました
参加希望者は役員にお知らせ下さい

NPO法人津山・きびの会
トトロの家（0868-23-0028）の住所
708-0863 津山市小桁137-2

第3回トトロサロンは、8月27日（土）
に「ソーメン流し」を予定しています。
まだ暑い頃ですが、ご都合のつく方は
ご参加ください。お待ちしております。

連絡先 川島焔三（090-7541-5263）

ご感想ご意見欄（7月例会）

奥地先生のお話しすごく良かったです。
親として子供を支えることの
大切さを感じました。親も人間
で心も揺れる。悲しく涙が出る時
も、どうして・・・？って思うこと
もあるので、自分がもう一歩頑張
ろうって思いました。

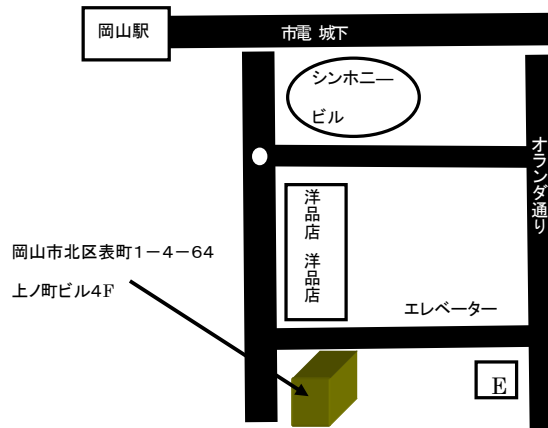
当事者学級 （AU会）

都合により8月は中止します。

8月きびの会居場所・行事カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
	1 居場所	2	3 居場所	4	5 居場所	6 父親学級 居場所
7	8 居場所	9	10 居場所	11	12 居場所	13 家族教室 居場所
14 月例会	15 居場所	16	17 居場所	18 健康教室	19 居場所	20 松田先生 居場所
21	22 居場所	23	24 母親学級 居場所	25	26 役員会 居場所	27 若者学級 居場所
28	29 居場所	30	31 居場所			

岡山きびの会 居場所 地図



家族教室：(原則)第2土曜日 午後1時半～4時 担当:西紀子さん
 松田相談日：(原則)第3土曜日 午前9時～午後6時 担当:松田勝カウンセラー
 ご 予約:中西 電話 090-9500-9618 または 086-955-2857
 料 金:会員は1時間 3,000円 ※定員 8名とさせていただきます
 母親学級：(原則)第4水曜日 午後1時半～4時
 当事者学級：(原則)最終日曜日 午後1時半～6時
 父親学級：(原則)第1土曜日 午後1時半～4時
 健康教室：(原則)第3木曜日午前11時～4時
 担 当：大阪府療術師会会員 大塚桂子さん
 若者学級：(原則)第4土曜日 午後1時半～6時
 役員会 第4金曜日 午後1時半～4時
 関心のある方はどなたでもご参加ください

平成12年9月20日 第3種郵便物認可(毎月25日行)平成28年8月27日発行 OSK増刊通巻462号
 発行所 岡山障害者団体定期刊行物協会 702-8025 岡山県岡山市南区内尾739-1 綾部小百合

(TEL 086-298-1162)

無断での掲載、転写は禁じます。(定価100円は会費に含まれています)